

第2号様式（第12条関係）

令和8年度 第1回大和市文化創造拠点等運営審議会 会議要旨

1 日時

令和8年7月2日（木）午後3時00分～午後5時00分

2 場所

大和市文化創造拠点シリウス6階 生涯学習センター601講習室

3 出席者

（1）審議会委員

5名

（2）市

ア 事務局

3名（図書・学び交流課長、図書係長ほか1名）

イ 関係者

2名（学び交流係長、保育指導係長）

（3）指定管理者

9名（やまとみらい統括責任者、事務局長、芸術文化ホール館長、図書館長、生涯学習センター総館長、屋内こども広場館長、防災センター所長及び事務局補佐2名）

4 傍聴人数

0名

5 議題

（1）令和7年度指定管理者評価の実施について

（2）文化創造拠点等指定管理業務の事業報告について

6 議事要旨

(1) 開会

事務局から、大和市文化創造拠点等に係る指定管理者の指定等に関する条例施行規則第8条第2項に基づき、本審議会を開会することを宣言した。

また、会長が欠席のため、上記規則第6条第3項に基づき、あらかじめ会長から指名された委員を職務代理として進行を依頼した。

(2) 議題

(1) 令和7年度指定管理者評価の実施について

事務局から、令和7年度指定管理者評価の実施について説明した。

【質疑応答】特になし

(2) 文化創造拠点等指定管理業務の事業報告について

指定管理者から、令和7年度事業の報告について説明された。

【質疑応答】

*運営組織に関すること

職務代理：非常に膨大な事業報告書で内容も濃いものであるが、記載されていないことも説明されていたようで、報告書を追っかけてもわからないものがあった。

指定管理者：説明の中でプラスアルファとして補足的に触れたものであったが、分かりづらくなってしまったことは次回への反省点としたい。

職務代理：補足説明の中に非常に良いことがあったと思う。せっかく良いことをやっているのならば、報告書にもしっかり記載しておいた方が良いと思う。

委員：報告書の16ページ、生涯学習センターの年間来場者数が目標値を大幅に上回っているが、ぷらっと大和などはどのようにカウントしているのか。

指定管理者：ぷらっと大和は、センサーが無いため、開館以来、職員が1時間に1回巡回する際にカウントした数値を累計して算出している。

*ホール関連サービスに関すること

職務代理：報告書の34ページ、避難訓練コンサートは来場者含めての実施で非常に貴重な経験になったと思うが、ホール部分だけで実施し

たのか、それともシリウス全館で実施したのか。

指定管理者：ホール部分だけで行った。全館部分としては年2回の防災訓練があるので、まずは、ホールに特化しての実施となった。メインホールは最大で約1,000人の集客があるため、万が一のことを想定して、誘導等の動きの確認のために行った。

職務代理：実際に火事が起きたら、ホールだけでなく全館で避難を要するが、確かに全館を巻き込んで訓練を実施するのは大変だと思う。まずはホールで実施してみて、どういう問題が起こりそうかなど何か気付いた点はあったか。

指定管理者：誘導自体はある程度形を決めたとおりに進められたと思う。ただ、火事を想定し最終的には建物の外に避難していただくため、アナウンス用にメガホンを用意したが、声が届かず、お客様からは何を言っているのかわからなかったと指摘を受けてしまった。外でのアナウンス体制を整える必要があると感じた。

委員：私はその避難訓練コンサートに観客として参加していたが、外でのアナウンスがわからなかったというのは確かにそう感じた。中から外への誘導は良かったと思うが、外へ出てから、どうしたら良いのかがわからなかったなので、先ほどの指摘はそのとおりだと思う。

職務代理：スタッフは想定の出火場所を知っていて訓練を実施したのか。

指定管理者：公演を主催する側のメンバーや誘導するスタッフには、火災発生の場合として事前に情報共有していた。

職務代理：こういう避難訓練コンサートを繰り返し実施しているところは、出来る限り極秘事項としてスタッフにはどこから火が出るということを教えないで実施している。発災場所によって避難経路が変わるためであり、参考にしてもらいたい。

委員：最近大きな地震が多く発生しており、避難の方法が変わってくると思う。大規模地震への対応は、館の責任者と市との調整もあると思うが、まずは火災を想定して、避難訓練コンサートを実施したのか。

指定管理者：地震の場合は、その場で待機して一定時間様子をみることにな

るが、今回は大規模地震の後に火災が発生したという想定で外へ避難してもらうことをシュミレーションするために実施した。今後はまた様々なケースを想定して対応していきたい。

＊図書館関連サービスに関すること

委員：市内の図書館には新しいところや古いところ、駅に近いかなどいろいろあるが、その場所や地域にあった運営をされていると思う。

職務代理：図書館の説明では「Blue Stars」という発言があったが、報告書では見つけられなかった。

指定管理者：44ページや45ページに記載のティーンズ事業で「シリウス図書委員会」を「Blue Stars」と呼んで活動している。今後は報告書に記載しようと思う。

職務代理：45ページの説明で「509名」という数字を言われたが、どの事業なのか。

指定管理者：「家読を推進する事業」で、いくつかの事業を合わせて報告していて、合計1,220人としているが、そのうち、509人が夏休みの読書チャレンジに参加した人数である。

職務代理：47ページでマリノスとのタイアップについて触れていたが、やはり記載が無いと思う。

指定管理者：健康情報サービスの健康イベントとして行ったが、記載が漏れていた。

職務代理：せっかく良いことをやっているのに、なぜ記載が無いのかと思う。64ページではSDGsの話をされていたが、どの事業か。

指定管理者：図書館・図書室連携事業として、毎年6月のSDGs月間に合わせて各館でSDGsに関するテーマの展示を行っているが、記載していなかった。

職務代理：公立図書館は、誰一人取り残さない、全ての人々のためにある施設として、SDGsに関する取組は、非常に重要な要素だと思うので是非記載してもらいたい。

委員：資料を作るときと説明をブラッシュアップしていくときのタイムラグが原因ではないかと思うが、PR出来る内容は積極的に報告

書に記載して欲しい。

職務代理：前年度の事業報告として、3月末には終わっているものなので、ポイントは外さないでもらいたい。

指定管理者：報告の補足として、こちらの説明手順の問題であるので、次回以降に活かしていきたい。

＊学習センター関連サービスに関すること

職務代理：学習センターは、70ページの個人利用と団体利用の関係で、こういう問題があっただけで解決したということ素直に説明していたことは好感が持てた。問題に対して良い道筋を付けましたということはすばらしいと思った。

委員：学習センターも各館それぞれ地域性がある、利用者の要求に沿うような運営が飽和状態になっていると思うが、指定管理者の工夫や努力をひしひしと感じた。決算書に関して、桜丘学習センターの事業収入が予算の22万円に対して決算が42万円と倍増しているのは、何か大きなイベントをしたのか、運営努力によるものなのか。

指定管理者：基本的に桜丘学習センターなどは、無料の講座も多いので普段それほど収入は上がってこないが、令和7年度は自主事業を当初1本計画していたのを2本行ったので、その分収入が増えたものだ。

職務代理：今の指摘は、決算書の事業収入で桜丘学習センターが422,900円あったというものの、それに対して支出の事業費において桜丘学習センターは850,198円なので、当該事業においては決して儲かっているわけではないということ。収支ではリスクを負いながら、やるべき事業はきちんとやっているということだと思う。

委員：北部文化・スポーツ・子育てセンターのアリーナにおける個人利用と団体利用の改善点について、団体利用者が片づけを行うようになった旨の報告があったが、それはスタッフの手が足りないからなのか、それとも利用者が行った方が効率的だからなのか。

指定管理者：アリーナの設営準備は1人では出来ないため、2、3人を要するが、来館者が多いので、タイミングによってはスタッフをすぐ

に投入できない時間もある。また、競技によってはネットの張り方などにこだわる方も多いため、利用者とも話し合いを行った結果、利用者の方が手伝うということになり、準備の協力をしていただくことになった。

委員：準備にあたり利用者が設備を取り扱ううえでは、危険が伴ったりするため、スポーツ保険などへの加入の確認はしているのか。

指定管理者：令和7年度はスポーツ保険には加入していたが、重い物や危険な物については職員が対応している。

職務代理：準備のためのセットアップは、ホールにおいてもあると思うが、館側のスタッフがやることと、利用者側がやることをどのようにケアしているのか。

指定管理者：ホールの舞台に関しては専門会社に委託しているので細かい部分までは不明だが、利用にあたっての事前打合せにおいて、ホールスタッフの行うことと利用者が行うことの線引きを決めている。メインホールでのバレエなど大掛かりな設備を使用する際やシンプルな音響使用の際は舞台側が関わるが、収録番組等の使用やホールに無い設備を持ち込む場合は主催者側に委ねて舞台側は一切関わらない。いずれにせよ事前の調整の中で決められてトラブルの無いような手立てを行っている。

職務代理：プロが使用する場合は問題無いと思うが、市民が利用する際の対応が十分ケアされているかどうかだと思う。

指定管理者：事前の打合せを時間をかけて行い、何が必要なのかを十分理解して利用してもらっている。

＊屋内こども広場関連サービスに関すること

委員：104ページの「親同士のコミュニケーション」は、子育ての課題がいろいろある中で非常に大事なことなので、今後も是非増やして続けてもらいたい。

指定管理者：月齢の近い子ども達が集まる広場なので、子育ての悩みも共通する縁からママ友などのコミュニティが出来上がり、ちびっこ広場に集合してみんなでお昼ご飯を食べに行くなどが見受けられる。館としてもコミュニティの醸成や子育て相談が出来るように、

子育て支援を充実させていきたいと考えているので、広場を積極的に活用してもらいたい。

委員：預かり事業について、現代は共働きが多いなど家庭事情があって、保育の場に行けなかったり、一時的に預かって欲しいなど地域のニーズに非常に合っていると思うが、利用者数や地理的な課題も今後検討する必要があるが、他のまちには無いこの事業は、市民にとっても良いことで好評を得ていると思う。

指定管理者：一時預かり事業について、シリウスでは通常の預かり保育施設と違って、面接が無い。利用者カードに登録していただければ、空いているとその日から預けていただけるという利便性の高い施設であるため、最終的に問合せてくる利用者も多い。そのため、出来る限り利用者の要望に応えられるよう調整して、お断りをしていないよう心がけている。中には2階の市民交流ラウンジで仕事をするために一時保育を夫婦で利用されている方もいて、リピートしていただけるような施設となるように考えている。

委員：利用状況はどうだろうか。

指定管理者：やはり土日は混んでいる。あと、年末から3月までの保育園が決まるまでの間なども利用が増える。1か月先までの予約が出来るので予約優先になり、お断りする場合もあるが、別日の提案をするなど出来る限り調整している。

職務代理：ホール事業と連動して一時保育を預かることはあるのか。

指定管理者：イベント保育という形で預かる場合がある。親がシリウス内のイベントに参加している間に一時保育を行う。

職務代理：ホールでコンサートがあるときに未就学児を預かるのはどうか。

指定管理者：予約の段階で予約理由は聞かないので、後々理由を知ることはある。

職務代理：メインホールに親子室はあるのだろうが、子供たちはあの狭い部屋に押し込まれて楽しいのかと疑問に思ってしまう。せっかくシリウスに来たならば、親が楽しい2時間を過ごしてる間、子供も楽しく遊べるのが良いと思うので、そのようなプログラムを考えていただきたい。

＊共通事項

職務代理：１１０ページの「連携事業」と「融合事業」の違いはあるのか。

指定管理者：曖昧かもしれないが、「連携」は、シリウスの中の２つや３つの施設の結びつきで行う事業で、「融合」はシリウス全館で行う場合を指している。

職務代理：外部との連携ではないのか。決まりは無いので一定の定義をしてもらえれば良いと思う。

指定管理者：わかりやすい表現に努める。

職務代理：１１４ページの市民ボランティア制度「やまとみらいパートナー」とは何か。

指定管理者：屋内こども広場を運営してる明日香が旗振り役になり、大和市在住でボランティアとしてシリウスで活動したい方や、イベントの手伝いをしてみたい方に集まっていただき「やまとみらいパートナー」という形で活動してもらっている。ここでは、会議体を設けてパートナーの皆からいろいろな意見や、こういうイベントをしてみたいなどのアイデアを出し合ってイベントを開催した。１１４ページの「み～んなの縁日活動」や「チャチャチャボッチャ」なども全てパートナーのアイデアがきっかけだ。「み～んなの縁日活動」は、夏の暑い時期に外で遊ぶ場が無いので公共施設の中を子どもが楽しめる広場に出来ないだろうかというアイデアから始まり、様々な議論の中でイベントの内容もバルーンアートやカードゲームなど自分たちで決めて実現したものだ。

職務代理：このようなボランティア組織を持つホールは各地にたくさんあるが、組織として単一のイベントではなく年間を通じて各種イベントをボランティアが担うとなると主催者側の立場になると思う。しかし、ボランティアに責任は持たせられないから、やまとみらいが責任を持つのだろうが、その部分の明確化が問題になってくるため、ボランティア保険についても制度・組織として考えていく必要がある。一方で、参加者側は相手がボランティアであろうが指定管理者であろうが同じであるので、そのことを意識してイベントを行う上での心構えなどもボランティアへ指導すべきも

のと感じた。

指定管理者：ボランティア保険には加入するとともに、子どもと接することが多いため、年1回青少年指導員から研修を受けている。

委員：やまとみらいパートナーの制度は、名簿登録し、決まったイベントへの参加を呼び掛けて集めるのではなく、企画団体のようなもののなのか。

指定管理者：114ページの「やまと市民まつり」や「やまとみらいまつり」など元々企画されたイベントに市民ボランティアとして参加するものもある。それ以外はボランティアのアイデアを実現するような形で運営している。

＊施設の維持管理に関すること

職務代理：光熱水費や人件費が高騰する中でのコストの低減は非常に難しいと思うが、夏季ボイラーの停止というのはマイナス面は無いのか。

指定管理者：空調は冷水器と温水器で温度調整をするので、室温を下げ過ぎてしまったときにすぐ上げることは出来なくなる。また、温度だけでなく湿度も調整しているが、その調整に影響が出ることがある。そのため、やみくもにボイラーを停止するのではなく、湿度と外気の状況やその日のイベントの状況なども見ながら、こまめに動かしたり止めたりしている。

職務代理：利用者からのクレームは大丈夫か。

指定管理者：今のところ大丈夫だ。

＊全体を通して

委員：情報発信について、やまとみらいのポータルサイトがあると思うが、ユーザー数として、例えば、大和市の公式 LINE のアカウントはだいたい5万人ぐらいの登録だと思うが、情報発信の連携として検討するという考えはあるか。

指定管理者：SNS 関係では今年新たな取組も検討しているところだが、大和市は他の自治体と異なり、広報面での連携が難しいため、独自の予算での対応を常に考えており、第3期指定管理期間に入った現在も模索している状況だ。

委員：私は近隣の自治体の LINE は全て登録しているので、イベントや

防災情報がいろいろ入ってくるが、ワンストップのように1つの入口から各種情報へアクセスできると非常に便利だと思う。利用者として、出来るだけユーザー数の多いところと連携できるように大和市の協力もお願いしたい。

委員：芸術鑑賞事業について、私は「フォレストタ新春コンサート」を見たが、高齢者で遠くまで行けない方にとっては地元に来てもらえるのは非常にありがたいことだと思った。私の周囲の中高年はフォレストタのファンが多いので、このような人気のグループの公演を定期的に行うことができるような仕組みは出来ないか。

指定管理者：フォレストタ以外にも新日本フィルハーモニー交響楽団など各公演後に来年もやりませんかという熱心な声を頂くので、そうした様々なご要望をもとに毎年アーティストを選んでいくが、限られた予算の中でいかにバラエティに富んだジャンルを用意できるか、いろいろな趣向にどうこたえていくかが我々の役割だと思っているので今後の参考にしたい。

委員：子どもを取り巻く環境で虐待やネグレクトといった問題があるので、子どもがいるあらゆる場で気が付くことが必要と思う。そして市へ知らせることが必要なので、預かり事業において、そのような視点を持ってもらえると市民として安心なので、研修などで学ぶ機会を設けてもらいたい。

指定管理者：運営会社の明日香は保育が専門の会社なので、所属の保育士は毎年3回以上虐待対応などの研修を受けている。現在も預かっている中で例えばアザがある子どもがいる場合は、少し探りを入れるなど様子を見ながら、反応がおかしいと思ったときは、市へ連絡して情報確認するなど連携を取っている。さらに大和市だけでなく相模原市や藤沢市など近隣他市とも情報共有を図っている。

委員：事業の中では保育士だけでなくスタッフ一人ひとりがそうした視点を持って、何かあれば市へ連絡してもらいたい。

委員：事前に報告書に目を通したが、市民のためにとても多くの事業を実施していることに感謝する。事業によってはなかなかチケット

が取れないこともあると思うが、これからも広報誌による PR に力を入れて、スマホやパソコンなどで情報を得るのが難しい高齢者にもわかりやすい PR をしてもらいたいと思う。

委員：全体として、各施設の機能を超えて地域コミュニティと連携して事業を実施している点や、まちの文化につないでいる点、コーヒーショップなど事業者を取り込んでいる点などを高く評価する。施設が単なる会館の貸出やイベントの実施に留まることなく、近隣の事業者とコラボすることにより、市民としても一体感が湧き、美味しいお店の情報が広まるなど町を魅力的にしているので、今後も継続して頂きたい。また、子育て関係では、やはり共働き親又はひとり親は子どもを預けるのが難しい場合があるため、居場所づくりが大事だと思う。特に「幼保」の小さな子ども向けには市内の様々なサービスが充実しているが、小学生以上に対する支援は手厚くできていないと思うので、地域における居場所づくりを引き続き行ってもらいたい。

職務代理：素晴らしい事業をやっていて報告書も内容が濃いけど、だんだんこれが当たり前になってきてしまう。評価は期待値に対してどれだけ出来たかなので、毎年期待値が上がっていく。シリウスは全国に先駆けた複合文化施設で非常に有名だが、今のまま続けていくだけでは期待値をクリアできない。最近は茨木市の「オニクル」のようなライバル施設も出てきて、今話題になっている。これまではシリウスを追随する施設は無かったが、だんだんシリウスを超えようとする施設が出てきているので、さらにもう一歩二歩でも前に進んで欲しいと期待して、この議題を終了する。

(3) その他

事務局より、次回の審議会予定の案内等を行ったほか、次の通り意見交換があった。

【意見交換】

職務代理：次第の「3.その他」に進む。全般を通じて何かあればどうぞ。

委員：やはり報告の内容が非常にボリュームがある。設備面や人に関することにおいてだが、昨今の人件費高騰や人材不足の中で、これ

ほどの事業をやっており、これ以上のことは出来ないと思う。これは参入業者も超えられないだろう。やまとみらいという JV だから出来るというのもあるが、現状のボリュームが標準になって、見えなくなるものもあると思う。大和市にあったやり方を模索していくために皆で意見を出し合っていくことが必要だ。

事務局：今、既に第3期の指定管理が始まっており、大和市の台所事情としては財政健全化を推進している中で、この指定管理は金額が大きいため目を付けられやすいが、事業内容のボリュームからすると、とても市の直営では出来ないものであり、指定管理導入によって市民サービスが向上している点は成果として捉えている。一方で、委員からの指摘のとおり、事業が大きすぎて見えなくなる部分はあると思うので、サービスの水準や費用の適正化など、市が適宜チェックしていく必要があると考えている。

委員：今後大規模地震を想定した対応を考えないといけないと感じる。昨今あちこちで中規模の地震が頻発しているので、万一ホールに1,000人もの人がいるときに避難誘導をどうするのか、備蓄品の対応など、大規模災害への対応策を話し合う必要があると思う。

委員：シリウスの建物は震度7までは大丈夫と聞いている。また、帰宅困難者の一時滞在施設にもなっている。

事務局：耐震能力から、本庁舎が被災して使用できない場合は、災害対策本部をシリウスに設置することになっている。

委員：備蓄品は用意されているのか。

事務局：シリウスは帰宅困難者の一時滞在施設として指定されており、帰宅困難者用の備蓄品として毛布や飲み物などはシリウスの倉庫に用意している。大規模災害時の避難場所は別の施設になり、その避難者向けの備蓄品はスポーツセンターやゆとりの森などに備蓄しているもので対応することが市の防災計画に規定されている。

(4) 閉会

職務代理より、審議会の閉会が宣言された。